

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4572200154
法人名	有限会社 鶴鶴
事業所名	グループホーム鶴鶴
所在地	宮崎県西臼杵郡高千穂町大字押方1303番地3 (電話)0982-72-2384

評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成19年7月27日

【情報提供票より】(19年7月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 1月 7日
ユニット数	1 ユニット
職員数	10 人
利用定員数計	9 人
常勤	9 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 10 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	水光熱費10000/月 円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり1,000円		

(4) 利用者の概要(7月12日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2	0 名		
要介護3	3 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低 77 歳	最高 92 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	後藤医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、民家の一画に位置しており、地元の方たちから良く見える環境的に良い場所である。ホームの畑には様々な野菜や果物が植えられ、新鮮な野菜が食卓にあがり季節感を感じさせている。利用者本位の視点を持ちケアしており、外出しての支援が充実している。自宅への帰宅、墓参り、神社の参拝など、ひとり向き合う支援も充実している。地域に貢献をはかり地元から支えてもらえるホーム作りを心がけている。近所からの見守りや差し入れの交流、近所の高齢者の健康相談にのったりと、相互関係が出来ている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	よい取り組みがなされているとの結果であったが、外部評価で得られた情報等や外部からの情報を取り入れ、更に良いものとなるように職員全員で取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価に関しては、職員全員が取り組み、項目の意味や求められていることの理解が出来ている。今回の自己評価は、今の現状に満足することなく、ほとんどの項目に「今後も更に取り組んでいきたい」とチェックが入り意欲が感じ取れた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を2か月に1回開催し、役場職員、公民館長、包括支援センター職員、消防団員、民生委員、利用者、家族、職員の代表がそろい、ホームの状況や自己評価、外部評価を報告し、今後の課題等を話し合っている。会議では、よりホーム内での様子を理解してもらおう意味で、ビデオや写真を使い説明している。役場担当者との連携は常に代表者が取り、ホームの通信や自己評価表と持参し、ホームの現状や課題等にも話し合っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会を年に1、2回開催し交流を図っている。意見が出やすいように共に食事をしたり時には飲酒をし打ち解ける工夫など家族との関係作りに気を配っている。2~3か月に1回、ホームでの暮らしぶりや写真を掲載し送付している。心身の状態変化の際には、きめ細かに連絡を取り協力を得ている。家族への情報はキーパーソンを含め関係者全員に伝えていく努力をしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	代表者の地元、自宅の隣にホームがあり、地域との関わり交流は密である。地域の方にホームを理解していただく意味で、認知症の理解の説明を行ったり、高齢者の健康相談にも関わっている。地域の祭りを通じて、婦人会や地区の方との交流は盛んである。又、保育園や小学生との交流も行われている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念としては「ゆっくり・ゆったり・いつも一緒」を掲げ、認知症の方がそれぞれの力を発揮して生活できるよう支援することを目標に熱心に取り組んでいる。運営方針としては、「高千穂の恵まれた環境と長い歴史によって育まれた文化伝承の中でケアしていく」とある。地域との関わりは強いホームである。		運営方針には地域との関わりが触れられてはいるが、地域密着型サービスとしての理念を、今ある分かり易い理念の中に、是非組み込めてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ケアの実践を通して理念を具体化し職員と話あっている。又、管理者は職員がケアの内容で行き詰った時など理念に基づき職員が向上できるように一つひとつ説明をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	代表者が地元の方ということもあるため、地域との関わり交流は密である。地域の方にホームを理解していただく意味で、認知症の理解の説明を行ったり、地域の高齢者の健康相談にも関わっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価に関しては、職員全員が取り組み、項目の意味や求められていることの理解が出来ている。外部評価の結果も職員会議等で話し合い改善に向け、評価の一連の過程を大切にしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に1回開催し、役場職員、公民館長、包括支援センター職員、消防団員、民生委員、利用者、家族、職員の代表がそろい、サービスの向上の為に取り組んでいる。会議では、よりホーム内での様子を理解してもらおう意味で、ビデオや写真を使い説明している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	県や町村とも連携とり、ホームの通信や自己評価表と持参し、現場の実情を積極的に伝える努力をしている。9月に五ヶ瀬町で新ホームの開所を予定しており、準備段階から町村との連携も取っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2～3か月に1回、ホームでの利用者の暮らしぶりや写真を掲載し送付している。心身の状態変化の際には、きめ細かに連絡を取り協力を得ている。家族の面会時は、利用者の暮らしぶりなどについて話し、介護計画に反映できるよう関係を良くしている。金銭に関しても3か月に1回は、用途や出納帳を作成し報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催し、交流を図っている。この時意見や不満が出易いように、共に食事をしたり時には飲酒をし打ち解けた中で意見が出やすいように家族との関係作りに気を配っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	9月には五ヶ瀬町に新ホームを開所する予定である。管理者等の常勤の職員に関しては、1ヶ月かけて引継ぎが行われる予定である。利用者・家族のダメージを少なくするように、職員同士がスムーズに交代出来るように心がけている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員の質の向上に繋がるように、様々な研修の機会を確保している。研修を受けた職員は、復命書を作成し職員会議で報告している。職員の家族に幼児や高齢者、病人がいる場合は、勤務体制を働き易いように調整している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮崎県グループホーム連絡協議会に加入し参加している。又、他のグループホームと定期的に交流を行っている。他のホームの職員から頂いた事例や情報を大切にし質の向上に繋げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用を考えている利用者・家族に対しては、見学をしていただき、利用者に関しては、お茶を飲んだりして過ごしてもらっている。職員は、利用者の自宅に訪問し、どのような環境で過ごされていたのか把握し、自宅とホームとの差があまり無いように対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家庭的な雰囲気の中で、職員や利用者が共に協力し合っている。利用者の得意な分野で力を発揮してもらい、感謝し共に支えあう関係作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の情報や家族会、日頃の利用者の様子、訴え、家族の思いを取り、職員全員が常に「本人はどうしたいのか」という視点を持ち把握に努め、ケアに繋げている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、家族や利用者から意見を聞き職員会議で検討している。家族からの意見が取り易いように、日常生活が分かる便りを送ったり、近況報告の電話をしたりして関係を保っている。家族の方からの情報も関係者全員から意見を頂き作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現段階では、3か月に1回見直し6か月ごとに介護計画作成を行っている。見直しにあたっては、ケアマネージャーが、家族・利用者の意向をくみ介護計画に反映させ、職員と検討し作成している。毎月職員会議で、利用者のケア検討を行っている。	○	毎月、利用者の検討会を職員会議で行っているため、計画の見直しは、今後毎月1回実施されることが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者と家族の暮らしが安心して継続ができるように、利用者・家族の状況に応じ、通院、特別な外出等対応している。自宅への帰宅、墓参り、友人宅への訪問、神社の参拝等柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族のかかりつけ医に継続して診てもらっている。ほとんどの場合、職員が病院に同伴し医師から指示を受けている。診察後は、家族に報告し情報を共有している。入院になった際は、入居時の状態がわかるサマリーを病院側に提供している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期ケアに対して、管理者、主任は、研修を受け取り組んでいく方向で検討している。職員には、重度化や終末期ケアの取り組みを説明し共有はかる予定である。		運営推進会議や役場に働きかけ、重度化や終末期にむけたケアが充実していくよう望みたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	定期的に家族に配信される便りの写真に対しても、家族から個人情報保護の観点から意見を聞き、ルールを守りながら作成、配布している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者ごとに職員の担当があり、利用者・家族と相談・観察し支援している。買い物、外出、塗り絵、動物とのふれあい、野菜取りなどその方がしたいと思っていることに出来るだけ沿うようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑から取ってきた野菜を見てもらい、何の料理にしようかと働きかけたり、一緒に調理をしたりと食事をするまでの一連の過程を楽しめるように工夫している。台所に数脚の椅子が準備されており、味見をしたり下ごしらえをしたりと入居者の出番がある。食事は利用者と一緒にテーブルを囲み楽しく食事が出来る雰囲気を作っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間や回数は、利用者の希望に合わせて対応している。ハーブ湯やゆず湯など季節感が味わえる入浴の支援も行っている。入浴を拒否される方がいる場合の声かけは、職員を違えたり時間を変えたり又は、入浴後の楽しみを見つけて声かけするなどの工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	買い物、食事の準備、調理、片付け、洗濯たたみ、園芸、散歩と利用者が生活の中で活躍する場面が準備されている。祭りへの参加や季節感を感じられる外出、地域の子供たちとのふれあいなど、さまざまな楽しみごとの支援が組み込まれている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ほぼ毎日のように中庭での散歩行っている。ホームの周りに季節感あふれる果物や花が植えられ、果物をつまみぐいしながら、花をつみながら散歩ができる環境が出来ている。車椅子の方に対しては、戸外に出る機会を増やしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関に施錠はしていない。入居者の生活パターンを把握し外に出ることに対して支援している。近所の方や近所のスーパーなど顔見知りの関係をつくり、万が一利用者が外出した場合でも協力がもらえる体制作りに努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は、利用者も参加し、地域の消防団の協力を得ながら行っている。避難訓練には、消防団から搬出方法や危険箇所などの助言を得ながら取り組んでいる。職員の中には、防災ボランティアの研修を受けた職員もいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量に関しては、記録し職員全員が情報を共有している。利用者の疾病や状態にあわせた食事作りがなされている。食欲低下時には、利用者の好みのものを取り入れたり、食前酒(軽い梅酒)の活用や健康補助食品の活用をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家作りで家庭的な雰囲気です。共有スペースは、畳間やソファ、椅子が準備され、おのおのが居心地良く過ごせるように工夫している。所々に花がいけられ季節感をうまく取り入れている。季節によっては、風鈴や鈴虫を準備し居心地のよい環境を作っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者・家族からの持ち込みを常にお願ひし、利用者の好みに応じた環境作りに努めている。各部屋の入り口にかけてあるのれんは、利用者の好みのものをかけている。		